

受付

6.3.15

議会事務局
総務課

(様式2)

令和6年3月15日

京丹後市議会議長 様

会 派 名 無会派

代表者氏名 松 本 聖 司

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1 日程

令和6年1月22日(月)～23日(火)

2 場所

衆議院第一議員会館 地下1階 大会議室(10:30～11:30)

3 目的

山陰近畿自動車道整備推進決起大会の参加し建設促進に努めるため

4 該当する政務活動費の使途項目

要請陳情費

5 支出経費の内訳と金額

交通費 27,470円 宿泊費 8,099円 合計¥35,569円

6 参加議員名

松本聖司

7 活動成果の概要、所見

I. 山陰近畿自動車道整備推進決起大会の概要

司会の谷公一衆議院議員より、決起大会に先立ち、能登半島地震によりお亡くなりになった皆さんに対し哀悼の誠をささげるため黙禱が実施された。最初に主催者

の国会議員連盟会長の石破茂衆議院議員より挨拶があり、能登半島地震で大変な生活を送っている同じ日本海側に住むものとして、大変さを実感している。鳥取から能登半島に向かうにはいったん東京に出た方が早い。道路も同じことがいえる。首都直下型の地震がいつあるかもしれない。国全体のことを考えても早期の山陰近畿自動車道の完成が求められる。

次に同じく主催者の推進協議会会長の西脇京都府知事から挨拶があった。能登半島地震により、半島を周回する道路に大きな影響が出て、救助活動、支援物資の輸送に大きな支障が出ている。山陰近畿自動車道の日本海側のミッシングリンクの解消及び国土強靱化に寄与する道路であります。整備状況は32キロメートルが未供用区間であり、国土交通省の技術的な指導も含めて宜しくお願いしたい。その後、出席国会議員及び兵庫・鳥取県知事より挨拶の後、要望書の手交があった。



山陰近畿自動車道路早期全線完成に係る要望書の手交

地元関係者の意見発表として京都府漁業協同組合理事の畑崎幸雄氏からは、組合として舞鶴市から京丹後市までを中心に活動し、全国的にも珍しい都道府県内1漁協で、事業展開している。兵庫県境で大型定置網漁業を操業し、福井県境に近い舞鶴卸売市場に毎日のように鮮魚を輸送している。海産物は鮮度が重要であり、新鮮なものから競り落とされる。峰山から網野までの早期の事業決定、その先の兵庫県境までのルート決定及び早期の全線開通を待ち望んでいる。

次に地元市町長として中山市長の意見発表が続いた。昨年の補正も含めて着実な整備に対し感謝申し上げる。1日も早い全線開通、最大限の加速化をお願いしたい。京都府から有料化の話をいただき、事業の加速かに繋がるのであればと判断した。

令和10年代には全線整備をとの切実な思いです。三方海に囲まれた半島にあって、回復力の高い道路ネットワークこそ山陰近畿自動車道であり、市民を災害から守るためにも早期の全線供用開始をお願いしたい。

この他にも参加した兵庫・鳥取県代表の地元首長及び地元関係者の意見発表があった。最後に深沢鳥取市町等の発声で、がんばろう三唱を行い閉会となった

II. 所見

地元市町長の意見発表として、中山市長の発言は私たち京丹後市民の思いを十分に汲み取った内容であった。山陰近畿自動車道路の工事進捗が一番遅れている（未事業区間47kmの内27km）京丹後地内における早期事業化を求めるため、令和7年度からの宮津ICを通過すると新たに150円の課金。令和9年度からは300円の課金が予定されている。令和10年代の全線開通と開通年度を明確に求め、京丹後市内外の資本において、市内への全線開通を見込んだ投資を呼び込むための苦渋の選択である。その上で、有料化が実施されるまでに峰山ICからの網野ICまでの事業化と令和8年度中の峰山ICまでの供用開始と網野から兵庫県境までのルート決定を求めたところである。京都府からは、山陰近畿自動車道の全線開通に向けた効果を見せる、積み上げて示すことが、必要ではないかとの意見もいただいているので関係者と協議を進めたい。あわせて、道路議連独自の活動として今までの要望活動のみで十分なのか改めての検討も必要と考える。

8 成果物、資料等

山陰近畿自動車道早期整備に関する要望書（丹後・地域高規格道路推進協議会）